

我が家の猫を見て思う

物理学会会長 武田 朴 (物理1回生)
東京工科大学保健医療学部 教授



我が家には関係する猫が7～8匹居ます。2匹は家の中にいて、私の顔を見るとそそくさと逃げ出す判断力のない猫です。1匹は家にえさをもらいに来る猫で家の中の猫の母親です。名前はプーです。事の起こりは、以前に飼っていた雄猫（ミャー）が亡くなり庭に墓を作り、猫のえさを供えていたところ、おなかが大きくなってしまった若い雌猫が食べているのに妻が同情してえさをあげ始めたところにあります。このときプーは4匹子猫を産みました。結局残ったのは1匹でプーコと名付けました。半年たたない内にまたプーは4匹の子猫を産みました。普通、猫は前に産んだ子はテリトリーから追い出してしましますが、プーコはそのままつれて歩いていました。1匹ひ弱で育ちそうもない子猫を家に入れて、保護していたところ、欲しがることができました。野良猫が増えるのは困るので、やむなく、残りの5匹の猫を（すべて雌猫）捕まえて避妊手術を施しました。傷が治るまでは檻に入れて養生させ、外に出しました。家には死んだ猫の他に飼い猫が一匹（チー）いました。ところが猫に病気がはやり5匹すべてが重い症状になりました。やむなく、捕らえて家に入れて養生させようとしたのですが、プー、プーコは捕まらず、プーコは行方不明（おそらく病死）となりました。プーはそのまま回復しました。家の中に入れた3匹は回復しました。一匹は家に居着かず表に出ました。そして、猫の習性通り、プーに追い出されました。うちにくればえさが食べられることを知って、他の猫も我が家にやってくるようになりました。プーには庭に冬でも暖かく過ごせるように発泡スチロールで小屋を作ってこれで3度

目の冬ですが、後から来た猫（始めは小さな猫でプーの食べ残しを食べていました。）が大きくなり、どうやら、小屋からは追い出されてしまったようです。えさは食べに来ています。時間を元に戻して、ミャーが存命中（体重7kgの大猫）よくチーにうなり声を上げて脅していることがありました。飼い主としてはそのたびに、ミャーをしかりました。しかし、よく観察すると、先にチーが手を出して居ることの方が多いのです。それがわかってから、引き分けるだけにするようになりました。ところで、なぜこのような話をしたかということ、皆さんがこれから出て行く実社会にはこれと似た構造が存在しているのです。もっとも、重要なことは、皆さんは人から苦言を呈されたことなどない人が多いはずですが、社会に出れば、いやでも苦言を呈されます。テリトリーの取り合いもあります。その中で自分の力で生きていくのですが、頼っていけば力になって下さる人を見つけることも重要です。骨肉の争いに巻き込まれることもあると思います。実社会で生き抜くには、「自分の人生を自分の物にしようという意志」が大事です。次に「やられたらやり返す」根性が必要です。ただし、「勝てるようになる」まで辛抱してからやり返して下さい。その頃にはたいてい相手が自からこけています。その次は「信じる者は救われる」こともあるし、「信じる者は救われない」こともあるということです。その選択は自己責任です。また、最後に「信じる者を救える人」であることに努めて頂ければと思います。拙劣ではありますが、卒業する諸君に贈る言葉としたいと思います。